

令和6年2月8日開催

都市基盤整備・危機管理対策特別委員会

委員 長 報 告

令和6年3月定例会

委員 長 宇 田 川 好 秀

去る2月8日に開催されました当委員会の審査概要について、ご報告申し上げます。

「川口駅再整備基本計画（案）について」報告を求めましたところ、次のような説明を徴しました。

近年の川口駅は、乗車人員が増加傾向である一方で、乗り入れ路線が1路線であることから、通勤・通学時の混雑に加えて、列車の遅延・運休時には駅舎内や駅前広場等に利用者があふれてしまう状況であるとのこと。

こうした状況を踏まえて、本市では鉄道輸送力の増強に向けて、総合計画において川口駅への中距離電車停車を掲げてきたほか、令和4年11月には、JR東日本と調査協定を締結し、具体的な調査を進めてきたとのこと。

本計画は、川口駅周辺の現状を踏まえて、中距離電車の停車のためのホーム増設等を内容とする川口駅再整備の必要性を整理するとともに、調査の結果等に基づき、現時点において考えられる具体的な施設計画や事業計画を示すことを主な目的としているとのこと。

本計画の概要について、停車対象とする中距離電車は、鉄道輸送力の高さ及び沿線の開発見込みが優れている上野東京ラインとし、京浜東北線の西側にホームを新設するとのこと。また、既存の駅舎内通路と駅北側に位置する歩行者デッキの間にコンコースを整備する計画であるとのこと。

事業実施に伴う効果については、貨幣換算の手法が比較的確立されている4つの効果を試算し、その効果と調査により示された事業費を基に費用対効果を算定したとのこと。その結果、事業費以上の大きな効果が見込まれるほか、通勤・通学の円滑化による定住人口の拡大なども期待されるとのこと。

今後のスケジュールについては、令和6年4月以降にパブリックコメントを実施するほか、本市が負担する経費の範囲を精査するなど、基本協定の締結に向けJR東日本と協議を行なっていくとのことでありました。

以上のような説明に対して、東京一極集中や将来の人口減少の流れのなかで、激化する都市間競争を見据えた場合の当該事業の必要性について問われ、これに対して、「選ばれるまち」の実現に向けては、通勤・通学等の円滑化を図る必要があり、川口駅の中距離電車停車による鉄道輸送力の増強は、必要な未来への投資であると考えているとのことでありました。

このほか、停車対象とする中距離電車にかかわり、新宿方面へのアクセスの向上について等、質疑応答の後、本報告を終了し、委員会審査を終了した次第であります。

なお、現地視察として、消防指令システム及び消防救急デジタル無線について視察をいたしましたことを付言いたしまして、報告を終わります。